

## 19. 医学系学府

(1) 医学系学府の教育目的と特徴	19-2
(2) 「教育の水準」の分析	19-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	19-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	19-11
【参考】データ分析集 指標一覧	19-12

## (1) 医学系学府の教育目的と特徴

### 1. 教育目的

本学府は医学に関する社会の多様なニーズに応える人材を組織的に養成する。

### 2. 教育目標

特定の領域に偏ることなく、社会の多様なニーズに対応しかつ国際的水準の研究を推進することができる人材を輩出することを目的とする。医学専攻、医科学専攻、保健学専攻及び医療経営・管理学専攻の4専攻からなり、それぞれ学位（博士（医学）、修士（医科学）、博士（看護学）、博士（保健学）、修士（看護学）、修士（保健学）、医療経営・管理学修士（専門職））を授与している。

この目的を達成するため、本学府では以下の中期目標を設定している。

- ① 社会貢献できる研究マインドをもった医療人の輩出及び医学の発展を担う豊かな人間性を備えた人材養成を行う。
- ② 高度化する医療とその情報化に対応し、教育・研究者へ発展可能な人材を育成する。
- ③ 国際的視野をもち、国際共同研究遂行能力を備えた人材を輩出する。

3. 期待する入学者像：多様なバックグラウンドを持つ入学者を受け入れることで、「生命科学に対する情熱と明確な問題意識を持ち、また倫理性に加えて、科学的エビデンスを分析出来る論理的な思考力を持つ者」、「出身学部で取得した知識を活用して、医学の使命を達成する情熱を有し、加えて論理的に問題を解決する思考力を持つ者」、「課程修了後の現場における貢献度・創造性・実現可能性の資質と能力を有する者」の獲得を目指している。

4. ディプロマ・ポリシーの特徴：医学専攻、医科学専攻、保健学専攻では「出身学部で取得した知識と医学が融合した、創的な先端的生命科学研究者と高度専門職業人」の養成、医療経営・管理学専攻では「医療政策、医療経営、医療管理、医療コミュニケーションについて、専門的知識を習得し、医療経営・経営管理の実践と改善において中心的役割を担える」人材の養成を目指している。修了生には高度医療・研究機関における臨床・基礎研究の継続や海外留学という進路がある。

5. 以上の教育目的と特徴は、本学の中期目標記載の基本的な目標「自ら学ぶ姿勢や態度、分野横断的な俯瞰力、課題発見・解決能力を育む大学院（学府）教育を展開し、豊かな教養と人間性を備え、世界的視野を持って生涯にわたり高い水準で能動的に学び続ける指導的人材（アクティブ・ラーナー、骨太のリーダー）を育成する。」を踏まえている。

## (2) 「教育の水準」の分析

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

#### <必須記載項目1 学位授与方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 7319-i1-01、05）
- ・ 公表された学位授与方針（2020年3月）  
（別添資料 7319-i1-02～04、06～12）  
（添付理由：2019年度に学位授与方針、教育課程方針、及び学生受入方針の見直しを行ったため）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目2 教育課程方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 7319-i2-01、05）
- ・ 公表された教育課程方針（2020年3月）  
（別添資料 7319-i2-02～04、06～11）  
（添付理由：2019年度に学位授与方針、教育課程方針、及び学生受入方針の見直しを行ったため）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料（別添資料 7319-i3-01～21）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 7319-i3-22～24）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 7319-i3-25～28）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 看護学、助産学、医用量子線技術学、検査技術学に関連し、前半は共通科目により基礎的な内容、後半は各分野に応じた専門内容について、医療系専門資格や実践経験が豊富な専任講師による教育体制により、保健・医療・福祉など社会の要請に応える人材を養成するようカリキュラムを構築した。[3.1]
- 2013～2017年度に採択された、文部科学省の先進的医療イノベーション人材養成事業「イノベーションを推進する国際的人材の育成」により、2014年度に博士課程に「医療イノベーションコース」を設置し、医療イノベーションに強い志を有し、推進し、国際競争に勝ち抜く人材育成に取り組み、2015年度に2名、2016年度に1名、2018年度に1名が入学している。（別添資料 7319-i3-29）[3.2] [3.3]
- 2017～2021年度に採択された、文部科学省の橋渡し研究戦略的推進プログラム「地域と拠点を結び世界へ展開する新規医療技術の研究・開発」により、2009年度に医学専攻博士課程に「がん専門医師養成コース」を設置し、がんゲノムの時代に小児から成人までがん拠点病院で活躍する医学者と臨床医の人材育成に取り組んでおり、2016年度に15名、2017年度に17名、2018年度に11名が入学している。（別添資料 7319-i3-30）[3.2] [3.3]
- 毎年1回、地域に開かれた公開講座や国際フォーラムを主催し、国際医療の場で活躍できる人材の育成に取り組んでいる。2017年度に採択された文部科学省が支援する「がん専門医療人材養成プラン」において、「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」に参加し、がんに対する医学・医療および関係する医学物理士の教育と育成に取り組んでいる。2017年度は1回、2018年度は3回の講演会を開催し、2019年度は2回の講演会を開催した。[3.2]
- 保健学専攻医用量子線科学分野は、高精度画像診断・放射線治療に必要な医学物理士を養成するために「医学物理士・放射線治療品質管理士養成コース」（2012年度から医学物理士認定機構による認定）を設置し、幅広い知識と高度な技術を身に付けた医療人の育成を推進している。2016年度から2019年度の医学物理士

認定試験の平均合格率は55%（全国平均30%）、16名の認定者を輩出している。

[3.2]

- 高度汎用的な知識・技術・態度を涵養する大学院基幹教育科目が開かれている。  
(別添資料 7319-i3-31) [3.5]

#### <必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 7319-i4-01～05）
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料  
(別添資料 7319-i4-06～15)
- ・ 専門職大学院に係るCAP制に関する規定（別添資料 7319-i4-16）
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 7319-i4-17）
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料（別添資料 7319-i4-18）
- ・ 指標番号5、9～10（データ分析集）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 医学専攻では、厚生労働省医系技官、医療系訴訟、研究倫理などを専門とする弁護士や地域医療職者を講師として招聘し、行政システムや政策、医療訴訟の実際、地域医療の実態、臨床倫理等に関する講義を行っている。[4.1]
- 保健学専攻修士課程および保健学専攻博士後期課程では外部から各分野の専門家を講師として招聘し、国内外を問わず先端的な動向についての情報を取り入れるよう教育を工夫している。また、シミュレーション学習、OSCEを取り入れたアクティブ・ラーニングを行い臨床実習への一貫性を試みている。[4.1]
- 医療経営・管理学専攻専門職学位課程では、保健医療福祉における各分野の専門職である学生が、討論、ワークショップ、ロールプレイに参加することで、アクティブラーナーとして積極的な学習に取り組めるようになっている。[4.2]
- 保健学専攻修士課程および保健学専攻博士後期課程での多くの講義・演習において、Moodleを活用し、出欠管理やWeb資料を用いたペーパーレス教育を行うだけでなく、実習記録等も電子ファイル化を進めている。[4.3]
- 医療経営・管理学専攻専門職学位課程では、講義以外に特に2年次は演習を重視している。演習及び最終成果物（研究論文や調査等）作成は全学生の必修科目であり、指導教員のもとで、具体的な研究課題に取り組ませている。必修専門科目である「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」はすべて医療経営・管理学講座の専任教員が務め、指導教員として最終成果物の作成の指導にあたっている。[4.4]

## 九州大学医学系学府 教育活動の状況

- 学府においては可能な限り査読付き論文の投稿、受理を目標として、研究デザインから論文構成、データの整理と考察、査読への対応といった指導や国際学会発表を繰り返し実施している。[4.5]
- 保健学専攻修士課程および保健学専攻博士後期課程では少人数に対し細かい論文指導と教育および研究（含む論文指導）の指導を行い、学生もTAやRAにおいて教育と研究を補助する機会を与えている。短期海外研修を推奨し医用量子線科学分野は毎年8～9名をアジアの有名大学に派遣している。（別添資料 7319-i4-19）[4.5]
- 医療経営・管理学専攻専門職学位課程では、演習や最終成果物作成の過程において医療機関や自治体などの職場との連携が可能な場合には、連携を行うことで理論と実務の架橋を図った教育に対応している。[4.6]
- 医療経営・管理学専攻専門職学位課程では、授業アンケートにおいては、学生自身が学習成果について自己評価を行い、その結果は各教員が学習指導に活かしている。（別添資料 7319-i4-20）[4.7]

### <必須記載項目5 履修指導、支援>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 7319-i5-01）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 7319-i5-02）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 7319-i5-03）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 7319-i5-04）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 保健学専攻修士課程および保健学専攻博士後期課程では各研究室に配属された大学院生に対し、指導教員及び副指導教員の2名体制でよりきめ細かい学習支援と学習意欲向上に努めている。[5.1]
- 保健学専攻修士課程および保健学専攻博士後期課程の学生はTAやRAとして活動している。TAに関してもできるだけ経験を積ませることで、説明するための専門科目の基礎知識や、下級生への指導方法を通じ、キャリア形成の一助となるようにしている。[5.3]

## <必須記載項目 6 成績評価>

### 【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 7319-i6-01～06）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 7319-i6-07～10）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（（再掲）別添資料 7319-i6-03～06）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 専門分野の知識、技能、汎用的技能については、各科目の中で授業態度として評価の対象としている。また、各科目の成績評価の方法については、シラバスに付記し、学生に周知したうえで、適宜、筆記試験並びにレポートの提出等も行っている。[6.1]
- 医療経営・管理学専攻専門職学位課程では、演習として最終成果物の提出を義務付けている。内容は、研究論文とともに医療経営・管理現場に役に立つための調査、ケース・スタディ、ケースメソッド、教材作成である。評価は新規性、貢献度、完成度、発表、総合評価の側面に関して評価を行い点数化して行う。[6.1]

## <必須記載項目 7 卒業（修了）判定>

### 【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 7319-i7-01～15）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（（再掲）別添資料 7319-i7-01～15）
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準  
（（再掲）別添資料 7319-i7-01～15）
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（（再掲）別添資料 7319-i7-01～13、16）
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料  
（（再掲）別添資料 7319-i7-01～15）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 医科学専攻修士課程では、必要単位数を取得したうえで、修士論文の審査及び最終試験の結果等に基づき、本学府教授会が学位を授与すべきか決定する。[7.1]

## 九州大学医学系学府 教育活動の状況

- 保健学専攻修士課程および保健学専攻博士後期課程では、必要単位数を取得したうえで、修士論文および博士論文を中心とした最終試験の結果等に基づき、本学府教授会が学位を授与すべきか決定する。[7.1]
- 医学専攻博士課程では、学位論文の審査に当たり A、B、C、D で評価を行い C 以上の評価を与えた者を合格とする。また、3名の審査員全てから A より上段の評価である A (○) の評価を得た者は、九州大学医学博士優秀賞として表彰している。[7.2]
- 保健学専攻修士課程および保健学専攻博士後期課程では、論文調査委員（主査・副査）が、修士論文および博士論文を中心としこれに関連のある授業科目について、口頭又は筆記により最終試験を実施し評価する。評価報告を本学府教授会が審査する。[7.2]

### <必須記載項目 8 学生の受入>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 7319-i8-01、05）
- ・ 学生受入方針が確認できる資料（2000年3月）（別添資料 7319-i8-02～04、06～11）  
（添付理由：2019年度に学位授与方針、教育課程方針、及び学生受入方針の見直しを行ったため）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 7319-i8-12～14）
- ・ 指標番号 1～3（データ分析集）
- ・ 指標番号 6～7（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7319-i8-15）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 医学専攻博士課程では、国内はもとよりアジアをはじめ世界各国の医学と医療分野のリーダーとなり、将来もこの分野と幅広い領域と継続的に交流できる人材を育成するため、一般選抜のほかに、社会人特別選抜および外国人留学生特別選抜を行っている。（（再掲）別添資料 7319-i8-13）[8.1]
- 医科学専攻修士課程では、医学専攻と同様に国内外の医療リーダーとなりうる人材育成のため、一般選抜のほかに、社会人特別選抜および外国人留学生特別選抜を行っている。（（再掲）別添資料 7319-i8-13）[8.1]
- 保健学専攻では、研究能力だけでなく、医学研究者としての高い倫理性・人間性を求めている（（再掲）別添資料 7319-i8-05～11）。アジアをはじめとする世界



## 九州大学医学系学府 教育活動の状況

各国の保健学のリーダーとなり、将来も保健学の分野において我が国と継続的に交流できる人材を育成するため、修士課程ではアジア保健学コース、博士後期課程では保健学国際コースを設置し、外国人留学生を受け入れている（（再掲）別添資料（7319-i 8-14））。また、特色ある多様な人材を受け入れるため、個別出願資格審査制度を設け、社会人学生等も積極的に受け入れている。なお、就業等で制限された時間の中での履修を考慮し、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的な教育課程での履修を認める長期履修学生制度を採用することで、社会人学生への受け入れに対応している。[8.1]

### <選択記載項目 A 教育の国際性>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数  
（（再掲）別添資料 7319-i4-17、7319-iA-01）
- ・ 指標番号 3、5（データ分析集）

#### 【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 医学・医科学専攻においては、留学生の入学人数と卒業人数は 2016 年から 2018 年の間では、修士課程 5 名、博士課程 25 名。卒業生数は修士課程 8 名、博士課程 13 名である。（別添資料 7319-iA-02） [A. 1]
- 保健学科及び保健学専攻では、2006 年より毎年国際フォーラムを開催しており、海外から講師や学生を招聘して外国人講師による特別講演や学生が主体的に関わる Student Meeting を企画し、英語による交流、プレゼンテーションなどにより国際的感覚を養う機会を提供している。また、大学院生の留学生受け入れは、保健学国際コースを設け、バングラデッシュ、中国、およびベトナムからの受け入れ実績を有する。（（再掲）別添資料 7319-iA-01） [A. 1]

### <選択記載項目 C 教育の質の保証・向上>

#### 【基本的な記載事項】

（特になし）

#### 【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 医学・医科学専攻ファカルティ・ディベロップメント（FD）は、大学院委員会を中心として学生に対する教育のあり方や問題点について教員間の共通認識を

## 九州大学医学系学府 教育活動の状況

深め、改革の方向性を定めるため毎年1回開催している。2019年度のFDは「医学研究と倫理」をテーマに、“遺伝子組み替え関連の実験”“動物実験”及び“人を対象とする研究倫理に関する最近の話題”に関して講演、討論を行った。

(別添資料 7319-iC-01) [C.1]

- 保健学専攻において、FDは、毎年保健学全教員を対象とした全体FDと3専攻でそれぞれによるFDの2回が開催されている。2019年度は、合理的配慮を要する学生の教育、学外教育における配慮等の教育の質の保証と安全性をテーマに取り組んだ。(別添資料 7319-iC-02~03) [C.1]

### <選択記載項目D リカレント教育の推進>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（(再掲)別添資料 7319-i4-02)
- ・ 指標番号2、4（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 医学専攻博士課程および医療経営・管理学専攻専門職学位課程では、社会人学生が無理なく履修できるよう、また効率的な自己学習の時間が確保できるよう、特定の曜日に集中的に授業科目を配置している。(再掲) 7319-i4-02) [D.1]

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### <必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 7319-ii1-01）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 7319-ii1-02）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）  
（別添資料 7319-ii1-03）※法人独自資料添付
- ・ 指標番号 14～15、17～20（データ分析集）
- ・ 指標番号 16（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7319-ii1-5）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 医科学専攻修士課程の標準修業年限×1.5年内卒業率は、2016年度からのここ3年間は、93.3%、100%、86.7%であり、医学専攻博士課程は71.4%、60.0%、68.8%である。（（再掲）別添資料 7319-ii1-02）[1.1]
- 保健学専攻における修業年限内卒業率は、修士課程では2016年度からのここ3年間は、70.6%、76.9%、93.3%であり、博士後期課程は3年課程で30.0%、5.0%、3.1%である。保健学博士授与者は、2016年度9人、2017年度14人、2018年度7人である（（再掲）別添資料 7319-ii1-01～03）。助産師国家試験合格率は、2015年4月設立以来100%を維持している。（添資料 7319-ii1-04）[1.1]

### <必須記載項目2 就職、進学>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 第3期中期目標期間における医学専攻博士課程の修了生の就職先は、約4割は医学部附属病院、そのほかは主に全国の基幹病院となっている。  
（別添資料 7319-ii2-01）[2.1]
- 第3期中期目標期間における医科学専攻修士課程の修了生の進学及び就職先は、約6割は本学医学専攻博士課程へ進学し、そのほかは他大学への進学もしくは就職となっている。（（再掲）別添資料 7319-ii2-01）[2.1]
- 第3期中期目標期間における医学系学府保健学専攻の修了生の就職先は、約15%は九州大学病院、そのほかは主に各地の基幹病院となっている。  
（別添資料 7319-ii2-02）[2.1]

## 【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※  部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※  部分の指標（指標11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。